

## 「ヒゼキヤの信仰」

Ⅱ 列王記 18:4-6

## 【1】序

ヒゼキヤは 25 歳で分裂イスラエルの南ユダ王国の王となった。紀元前 728 年の出来事である。彼が王となったパレスチナ地方は、強大なアッシリヤ帝国の恐怖に囚われていた。このような状況の一国を導く王はどのような政策が必要であったのだろうか。

ヒゼキヤにとってはこの国におけるすべての基準は 18 章 6 節に従って据えられた。彼は預言者の言葉を聴き、従っていたのである。

## 【2】ヒゼキヤの行動

ヒゼキヤが王に就任してはじめて行ったことは宗教改革であった。ヒゼキヤの政治は偶像を取り除くことから始まったのである。これは、これまでの王たちが失敗したことでもあった。彼らは民の不安や周辺諸国からのプレッシャーの中でこれらを取り除くことをしなかった。自分自身もこの風習に従っていたほうが政治を行うには有利だったからであろう。ヒゼキヤが行った改革は、決して賢い王のすることではなかった。

4 節にはヒゼキヤが行った 4 つの行為が 4 つの動詞によって記されている。それは①取り除き、②打ち砕き、③切り倒し、④砕いた。というものである。これは徹底したものであった。中途半端なことではなかったということである。彼はモーセの戒めに具体的に従ったのである。

## 【3】第一の戒め

十戒の第一の戒めは、「あなたには、わたし以外に、他の神があってはなら

ない」(出エジプト 20:3) である。真の信仰はこのことを人生のルールとして受け入れるところから出発する。

ヒゼキヤは主の目にかなうことを求めて行った。ヒゼキヤが気にかけていたのは、外国の敵でもなければ、自分を王として期待をする国民でもない。あるいは自分自身の名誉でもなかった。主の御心を優先させたのである。

神に対して献身的に従うその態度はみことばに従って礼拝し、仕えることによって表される。彼が求めたのは神を礼拝することであった。

## 【4】ヒゼキヤの信仰

ヒゼキヤの信仰は 6 節のみことばによって表されている。このことこそ、ヒゼキヤが王としてとった政策であり、一貫した生き方であった。「堅くつき従う」とは、創世記で男女が一つとなる結びつきを現したことばである。主なる神とまるで一つであるかのように生きるのである。「離れない」とは、神のみ言葉をしっかりと自分のものとして、みことばが血肉となることである。みことばにしっかりとしがみついて生きる生き方である。

イエスは律法の中で最も大切な戒めは、「心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くしてあなたの神、主を愛しなさい」とおっしゃった。何を差し置いても主を求め、主を愛することである。このように神を喜び、神を喜ばせることが私たちに新しい力を与えるのである。

ヒゼキヤはこの時代の王として決して良い状態にはいなかった。しかし、この試練の中にあっても主への信頼を失うことはなかった。主に従い、主とともにいることが最大の幸福であることを理解していたのである。